

特集「持続可能な社会を実現するコラボレーション技術とネットワークサービス」の編集にあたって

井上 亮文^{1,a)}

2015年9月、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択された。SDGsは2016年から2030年までの間、発展途上国だけでなく先進国も取り組むべき普遍的な開発目標である。このSDGsにおける17のゴールや、その中で日本政府が実施する8つの優先課題の中には、「テレワークの推進」「オフィス改革」「公平で質の高い教育」「情報のバリアフリー」「医療情報共有」「災害情報システム」のように、グループウェアとネットワークサービス研究会で扱ってきたトピックが数多く含まれていることが分かる。

このような状況認識に基づき、情報処理学会論文誌において「持続可能な社会を実現するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号を企画した。本特集において時宜を得て迅速に関連する研究論文を一括掲載することにより、社会に成果を公開・共有し、グループウェアとネットワークサービスに関する研究のいっそうの発展に寄与することを目指した。

本特集号には、40件の論文が投稿された。2020年4月に第1回編集委員会を開催し、投稿論文が特集号のテーマに合致しているか審議した。同年6月に第2回編集委員会、9月に第3回編集委員会を開催して査読報告を審議した。最終的に22件が採録、18件が不採録と判定された。採録率は55%となった。

採録論文の内容はコラボレーション技術やネットワークサービスの最先端の応用に関するものが中心である。そこにSDGsに関連する省エネルギーや販売業務の効率化支援に関する論文も加わったことで、文字どおり「持続可能な社会を実現するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号としての役割を果たすことができたと考えている。

本特集号の編集時は新型コロナウイルスの感染拡大と社会活動の制限が続き、多くの学会が現地開催を断念してオンライン実施へと移行した。そこで、「インタラクション2020」の大会委員長である長谷川昌一氏、同プログラム委

員長である志築文太郎氏、同インタラクティブ発表委員長である小坂崇之氏らに、開催直前にオンライン実施へと変更を余儀なくされた際の舞台裏について招待論文として寄稿していただいた。このような状況下でのコラボレーション技術やネットワークサービスの可能性や課題が数多くあげられている。ぜひとも目を通していただきたい。

採録された論文はいずれも優れた内容を有しており、これからのグループウェアとネットワークサービスの研究開発の発展に寄与することを期待している。今回残念ながら不採録になった論文の中にも興味深いアイデアを提案しているものが多かった。編集委員会では、今後の再投稿を期待し、丁寧にコメントを返すことを心掛けた。

最後に本特集号の編集にあたり、優れた論文を投稿していただいたすべての著者の貢献にお礼を申し上げたい。また、予定どおり発刊できたのは、多忙の中、短期間の査読に協力いただいた査読者の方々、宮田章裕氏、角田啓介氏の両幹事をはじめとする編集委員、学会関係者の多大なご尽力のおかげであり、ここに心から感謝申し上げたい。

「持続可能な社会を実現するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号編集委員会

- 編集委員長
井上亮文 (東京工科大学)
- 幹事
宮田章裕 (日本大学), 角田啓介 (NTT)
- 編集委員
阿倍博信 (東京電機大学), 市川裕介 (NTT), 市野順子 (東京都市大学), 市村 哲 (大妻女子大学), 伊藤淳子 (和歌山大学), 井上智雄 (筑波大学), 江木啓訓 (電気通信大学), 大平雅雄 (和歌山大学), 岡嶋成司 (富士通研究所), 岡田謙一 (慶應義塾大学), 岡本昌之 (トヨタ自動車), 金井秀明 (JAIST), 金子 聡 (日本IBM), 川口信隆 (日立製作所), 爰川知宏 (東京国際工科専門職大学), 小林 稔 (明治大学), 斉藤典明 (東京通信大学), 塩澤秀和 (玉川大学), 高田秀志 (立命館大学), 中村亮太 (武蔵野大学), 樫山淳雄 (東京学芸

¹ 東京工科大学
Tokyo University of Technology, Hachioji, Tokyo 192-0982, Japan

^{a)} akifumi@stf.teu.ac.jp

大学), 服部 哲 (駒澤大学), 福島 拓 (大阪工業大学), 三樹弘之 (沖コンサルティングソリューションズ), 本橋洋介 (NEC), 由井蘭隆也 (JAIST), 湯澤秀人 (富士ゼロックス), 吉野 孝 (和歌山大学)